

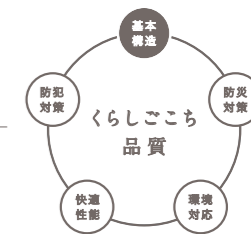
[売主・販売代理] すまいとくらしの未来へ
三井不動産レジデンシャル
MITSUI FUDOSAN RESIDENTIAL

[売主・販売代理] 暮らしに、いつも新しいよこびを。
三菱地所レジデンス



**MITA
GARDEN
HILLS**

QUALITY BOOK



地震に強い建物を造る

建築基準法の考え方

地震の多い日本の建築基準法は世界的に見ても非常にレベルの高いものです。基本になっているのは、中小規模の地震に対して建物の損傷を防止するとともに、数百年に1度の確率で起こる大規模な地震に対して、ひび割れ等の損傷は受けても建物を崩壊させず、人命を保護するという考え方です。

地盤調査

確かな強さを備えた地盤、建物の荷重をしっかりと地盤に伝える基礎があって初めて、建物はその強度を発揮します。当マンションは事前に、敷地調査とボーリング調査、標準貫入試験などの地盤調査を実施しています。

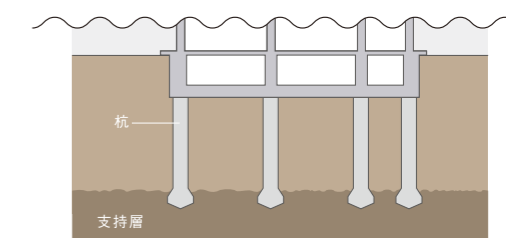
耐震構造

建築計画にフレキシブルに対応可能なラーメン架構による耐震構造を採用。十分な耐力と剛性を持った柱・梁断面による架構は粘り強い架構形式により地震に対応します。地下は耐震壁を設けることで非常に堅牢で地下の変形が小さく、地上の揺れも低減します。

基礎の構造(場所打ちコンクリート拡底杭)

基礎は建物の荷重を直接受け支え、支持層に伝達する最下部の構造体。当マンションでは、鉄筋コンクリート造の杭を現場でつくる場所打ちコンクリート杭(315本・軸径約1.8m)により、地下約16~18m以深の支持地盤に伝えています。さらに、杭の先端を拡げ^{*}、支持地盤に対する接地面積を広げることで力強い支持力が得られる拡底杭を採用しています。

※315本中310本

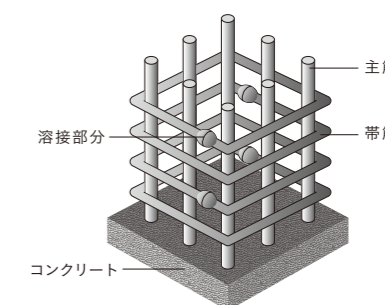


場所打ちコンクリート拡底杭概念図

溶接閉鎖型せん断補強筋

建物の主要な柱の帯筋^{*}に継ぎ目を溶接した、溶接閉鎖型のせん断補強筋を採用。フック加工の帯筋よりも、せん断力や圧縮力に対して、ねばり強く抵抗します。

※帯筋とは：鉄筋コンクリート柱の主筋を一定の間隔で水平方向に巻く鉄筋。
せん断補強の役割のほか鉄筋のはらみ防止の役割を果たす鉄筋で、フープともいいます。
*梁との仕口部除く
*ヴィラ、センタービル、ノースエントランスを除く



溶接閉鎖型せん断補強筋概念図

すまいの品質とは、住み始めてからわかる

「暮らしごこち」のよさです。

わたしたちが考える「すまい」とは、「暮らしごこち」という価値を生む場所のことです。

そのために、設計会社、施工会社、管理会社と協力しながら、

「暮らしごこち」のベースとなる高品質なマンションをご提供します。

安全性や快適性は、長年の経験とノウハウをもとに常に高い性能を追求。

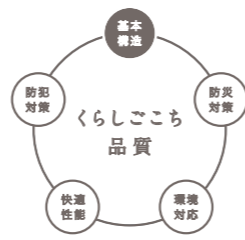
住み始めてから実感できる「暮らしごこち」のために、お客様の声に真摯に耳を傾け、

より良いすまいの実現を目指し続けます。

CONTENTS

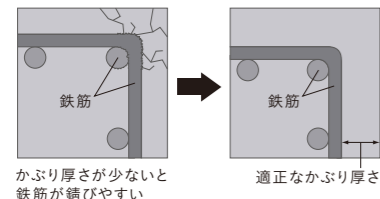
CHAPTER	地震に強い建物を造る	02
CHAPTER 2	設備や準備で災害に備える	04
CHAPTER 3	スマートな暮らしを総合的に考える	07
CHAPTER 4	心地よく暮らせる居住性に配慮する	08
CHAPTER 5	暮らしを守る安全対策を講じる	09

地震に強い建物を造る



鉄筋コンクリートのかぶり厚さ

コンクリートの中性化が極度に進むと、コンクリートの中の鉄筋は錆びやすくなります。鉄筋が錆びると膨張し、コンクリートの破損の原因になります。これを防ぐために、鉄筋を包むコンクリートの厚さ「かぶり厚さ」を適切に確保します。



かぶり厚さが少ないと鉄筋が錆びやすい

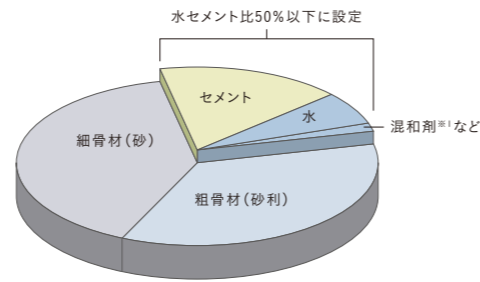
適正なかぶり厚さ

かぶり厚さ概念図

水セメント比50%以下

コンクリートは水（混和剤^{※1}含む）の比率が少ないほど耐久性を高めることができるため、水セメント比を50%以下に設定しています。

※1 コンクリートの性質上、乾燥収縮や温度変化による伸縮に伴うひび割れが発生する場合があります（一般的に構造上の問題はありません）。
 ※2 杭・工作物および外構部分のコンクリートを除く、建物本体部分の柱・梁・スラブ^{※2}といった構造躯体のみ。
 ※3 高強度コンクリート（48N/mm²、42N/mm²）はパークマンション、イーストヒル、ノースヒルの1階柱～10階床、サウスヒルの1階柱～13階床、ウエストヒルの1階柱～5階床に採用されています。
 ※4 杭・工作物および外構部分のコンクリートを除く、建物本体部分の柱・梁・スラブといった構造躯体のみ。

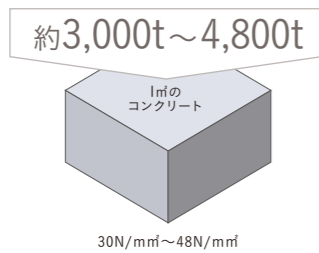


コンクリートの水セメント比概念図

コンクリートの品質

コンクリート耐久設計基準強度（構造物および部材の供用期間に応じた耐久性を確保するために必要とする圧縮強度^{※1}）の概念を導入し、柱、梁といった構造躯体については設計基準強度を30N/mm²以上とし、一部には最大48N/mm²の高強度コンクリート^{※3}を採用しています。

※1 圧縮強度とは、圧縮荷重によって試料が破壊する時の最大応力のこと。（応力：物体に外力が加わる際、その物体内部に生ずる抵抗力）
 ※2 30N/mm²とは、1㎡あたり約3,000トンの圧縮に耐えられる強度を意味しています。
 ※3 高強度コンクリート（48N/mm²、42N/mm²）はパークマンション、イーストヒル、ノースヒルの1階柱～10階床、サウスヒルの1階柱～13階床、ウエストヒルの1階柱～5階床に採用されています。
 ※4 杭・工作物および外構部分のコンクリートを除く、建物本体部分の柱・梁・スラブといった構造躯体のみ。

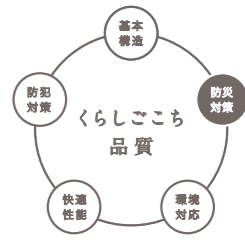


コンクリート強度概念図

劣化対策等級3

《設計住宅性能評価》の「劣化対策」において、最高等級の等級3を取得しています。鉄筋の錆対策など、住宅を長持ちさせるための対策の程度を示す等級。「等級3」は3世代（75年～90年程度）まで大規模な改修工事を必要としない対策が講じられていることを表します。

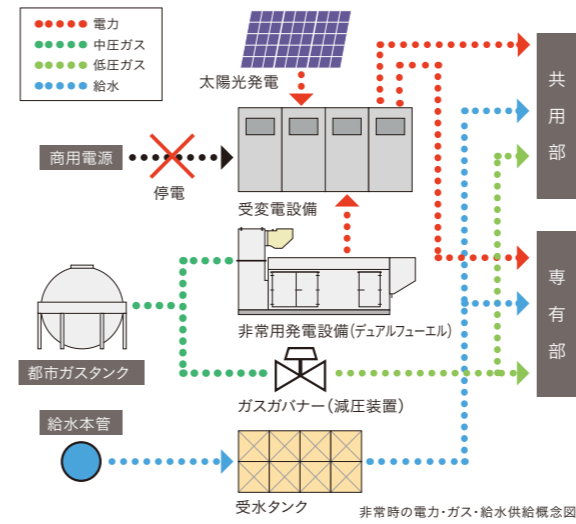
設備や準備で災害に備える



災害時の電力・ガス・水の供給対策

停電時の共用部・専有部への電力供給対策として、非常用発電機・太陽光発電等を設置しています。ガスの引込は災害に強い中圧ガスを採用しています。建物内に引込後、ガバナリーにて低圧ガスに減圧した後、専有部共用部にガスを供給します。給水は本管より受水タンクを経由し、給水ポンプにて専有部・共用部に給水を供給します。停電時には発電機からの電力によりポンプを稼働させます。

*あらかじめ設定された負荷・容量・受給想定に基づいて供給します。
 *内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。



非常時の電力・ガス・給水供給概念図

太陽光発電設備

停電時に、太陽光発電で発電した電力の一部を、非常用発電設備で発電した電力と連携して、保安負荷へ電力を供給します。また、通常時、発電された電力は共用部に供給され、電気代を削減することができます。



太陽光発電パネル（参考写真）

*内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。

災害時でも使用可能な照明・コンセント

長期停電時に、住戸内の一部の照明と給湯器・床暖房・冷蔵庫用のコンセント等へ、非常用発電設備により発電された電気を供給します。供給容量は面積帯で、1・2・3kVAの上限があり、上限を超えた場合ブレーカーが落ちますので、落ちた場合は改めてブレーカーの復旧をする必要があります。

*内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。

非常用発電設備（デュアルフューエル）

災害時に停電になった際は非常用発電機が作動し、法的に必要な消防設備、一部のエレベーターや給・排水ポンプ、共用部の保安照明、災害対策拠点の電気設備へ電力を供給します。非常用発電設備の燃料は、重油と災害時に強いとされている都市ガス（中圧ガス）のインフラを利用して供給されています。



非常用発電機（参考写真）

*予め設定された負荷・容量・受給想定に基づいて供給します。
 *消防設備での電力供給用として約2.7時間用のオイルタンクを設置しています。
 *内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。

中圧ガス

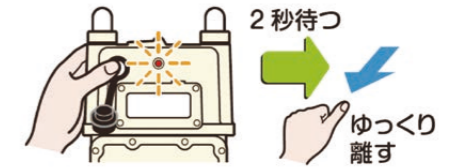
地震時に強い中圧ガスにより建物内にガスを導入し、ガスガバナリー（減圧装置）にて低圧に減圧した後、専有部・共用部にガスを供給します。

*内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。

給湯器利用

給湯器は停電時にも発電機からの電力により使用可能です。地震時はガスメーターが安全のために停止することがあります。各住戸ごとにお客様が、ガスメーター復旧作業を行うことによりガスの使用が可能です。

*内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。



地震時のガスメーター復旧説明図

災害時のトイレ対策

給水が敷地外の本管より供給される場合、停電時でもトイレが利用できるようにするため給水ポンプに電源を供給できるように計画しています。（専有部、共用部）

*専有部の大便器は停電時においても手動により排水可能。ただし洗浄便座は使用不可。
 *内外部のインフラ状況等により使用できない場合があります。



停電時の専有部大便器の洗浄方法

設備や準備で災害に備える

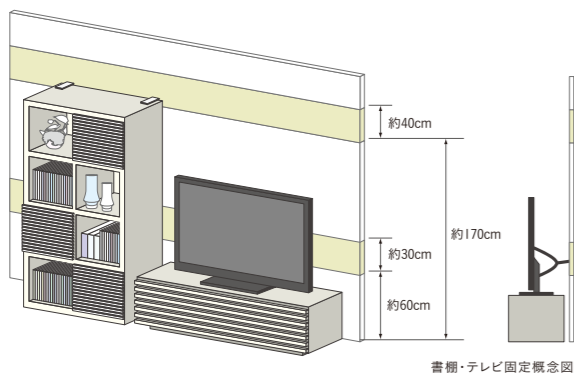
家具転倒防止対策

家具等の設置が想定される住戸内のリビング・ダイニング、洋室の壁面には、床から約170cm～約210cmの高さに家具転倒防止用金具が取付けられる下地材を設けています。

▶TVなどを固定できる上下2段の下地

大型TVなどの設置が想定されるリビング・ダイニングの壁には、上記下地に加えて下部にも床から約60cm～約90cmの高さに下地材を設けています。また、冷蔵庫置場には、床から約170cm～210cmの高さに家具転倒防止用金具が取付けられる下地材を設けています。

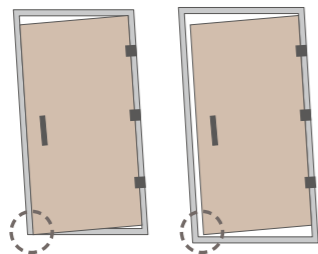
*地震の揺れや大きさによっては転倒や移動を防止することができない場合があります。
*タイプにより設置箇所、設置範囲は異なります。 *下り天井がある場合は上下下地位置が異なります。



書棚・テレビ固定概念図

耐震ドア枠

地震時の躯体変形が、玄関扉の開閉に支障をきたさないよう玄関には地震によって変形しても扉が開くよう、耐震ドア枠を採用しています。



通常(概念図)

耐震枠(概念図)

耐震ドア枠概念図

足元停電灯

停電すると同時に自動点灯します。非常時は、コンセントから取り外して、内蔵乾電池式携帯電灯としてご使用いただけます。明るさセンサーにより、暗くなると点灯する設定が可能のため、夜間の足元灯としても使えます。



足元停電灯(参考写真)

*乾電池の消耗により点灯しない場合があります。
定期的に点検してください。

安全に配慮した共用部ガラス

エントランスホールには、衝撃に強く割れにくい合わせガラスまたは強化ガラスを採用しています。万一割れても、合わせガラスは破片が飛びにくく、強化ガラスは破片の角が鋭利にならないので、大きなケガが少なくなります。



一般の板ガラスが割れた場合(参考写真)



合わせガラスが割れた場合(参考写真)



強化ガラスが割れた場合(参考写真)

キッチン吊戸棚・食器棚吊戸棚棚板脱落防止対策

地震の揺れで扉が開いて、中のものが飛び出さないよう、キッチンの吊戸棚の扉に耐震ラッチ*を設置。またキッチン吊戸棚の棚板には、水平方向の大きな揺れにも動きにくく、棚をしっかりと固定する脱落防止対策を行っています。

*耐震ラッチは地震の揺れ方や、揺れの伝わり方によって機能しない場合があります。
*キッチン吊戸棚設置タイプのみ。



耐震ラッチ(参考写真)



ウエストヒル・ノースヒル・イーストヒル・サウスヒル・ヴィラ(120㎡未満) / 棚板脱落防止用ツメ(参考写真)



パークマンション、ウエストヒル・ノースヒル・イーストヒル・サウスヒル・ヴィラ(120㎡以上) / 棚板脱落防止対策(参考写真)

管制運転・自動診断機能付きエレベーター

エレベーターには地震発生時最寄り階に着床しドアが開く地震管制装置と地震管制着床後に走行性能(起動・加速・減速・着床レベル等)ドア安全装置(センサー動作・制御スイッチ動作確認等)を診断し復旧する自動診断復旧を行います。強い揺れの感知により、エレベーターメンテナンス会社の点検後に復旧となります場合があります。

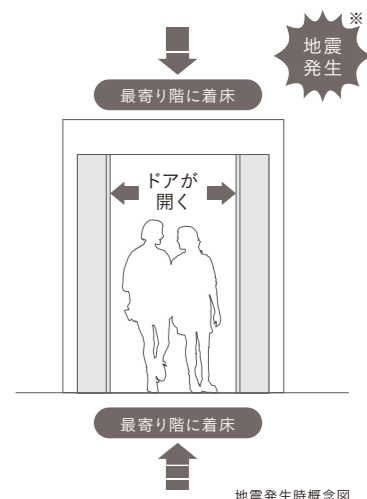
▶火災発生時避難階まで直行しドアが開く着床する火災管制装置を装備

また停電時には管制運転により着床の為にバッテリー電源により最寄り階まで非常運転しドアを開きます。さらに天井の停電灯が点灯するとともに、停電時でも作動するインターホンで外部と連絡とることが出来ます。また、当マンションのサービスエレベーターでは、より壊れにくく復旧しやすい耐震Sクラス仕様としております。

最寄り階、避難階までの走行機能

- 《地震発生》※ → 最寄り階に着床 → ドアが開く → 避難
- 《火災発生》 → 進行方向に関係なく避難階まで直行 → ドアが開く → 避難
- 《停電》 → エレベーター停止 → 再起動し、最寄り階に着床 → ドアが開く → 避難

※エレベーターの走行に支障があると感知した場合は、非常停止します。安全上ドアが開かない場合があります。
*停電時、一部エレベーターは発電機電源にて使用可能です。



地震発生時概念図

防災備蓄倉庫・災害対策拠点

防災備品を収納した防災備蓄倉庫を、地下1階～14階に設置しています。この防災備品は共助に必要な備品を中心に取り揃えています。合わせてエントランス等を災害対策拠点とし、お住まいのみなさまが共助活動を行う場所としています。



▶救助工具セット

▶圧縮毛布

▶カセットガス発電機

▶おんぶ紐

▶組立式トイレ

▶組立式トイレ用テント

主な防災備品の一例 *写真は全て参考写真です。

防災訓練・防災イベント

管理会社である三井不動産レジデンシャルサービスでは、防災イベントや訓練の実施サポートを行っています。いざという時に落ち着いて行動するための重要な取り組みになります。また震災マニュアルの作成補助や防災対策関連の情報を提供します。

*災害時は居住者自身で問題に対処する必要があります。そのため、居住者の防災意識醸成のための住人代表として、また、管理会社他関係者との連絡窓口担当として、管理組合にて防災担当を複数名選任する予定です。

火災発生時の警報

キッチン、居室等に火災感知器・スプリンクラー*を設置。火災を感知すると、火災発生住戸の天井スピーカーが鳴動し、出火階と直上階の天井スピーカーが報知鳴動します。防災センターに火災発生場所を表示すると同時に、警備会社と三井不動産レジデンシャルサービス「お客様センター」へ通報します。数分後、全館の天井スピーカーが鳴動します。

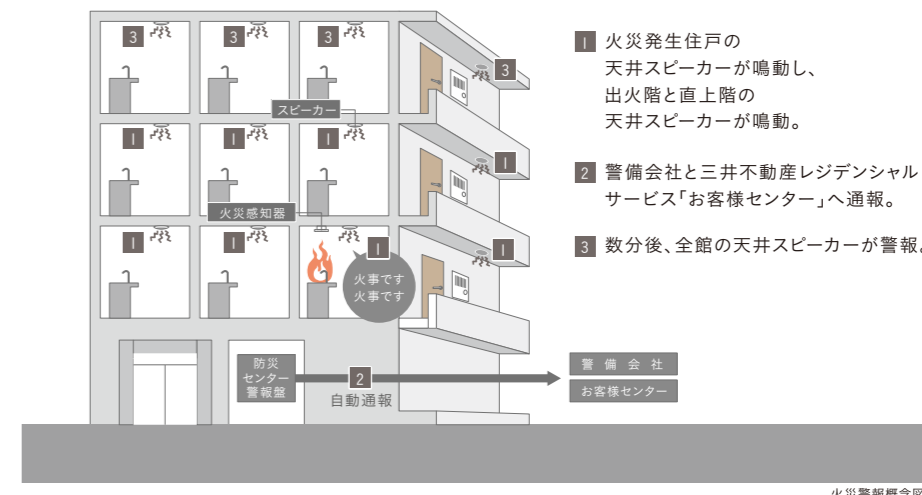
*ノースヒル、サウスヒルは11階以上に設置。パークマンション、ウエストヒル、イーストヒル、ヴィラは全階設置となります。



火災感知器(参考写真)



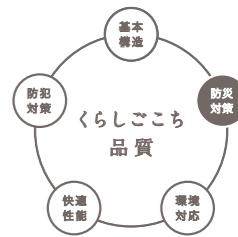
火災感知器(参考写真)



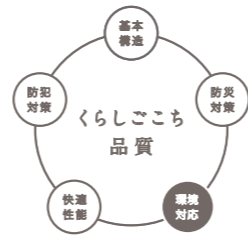
- 1 火災発生住戸の天井スピーカーが鳴動し、出火階と直上階の天井スピーカーが鳴動。
- 2 警備会社と三井不動産レジデンシャルサービス「お客様センター」へ通報。
- 3 数分後、全館の天井スピーカーが警報。

警備会社
お客様センター

火災警報概念図



スマートな暮らしを総合的に考える



人感センサー対応照明

人を感知すると自動点灯し、一定時間たつと自動的に消灯。省エネに役立ちます。



共用部天井人感センサー(参考写真)

*共用部：ゴミ置場、駐輪場、トランクルーム
*専有部：玄関、トランクルーム、ハトラーボックス(パークマンション)

LED照明

消費電力量が少ないためCO₂排出量を削減。寿命も長持ちします。

即湯ユニット

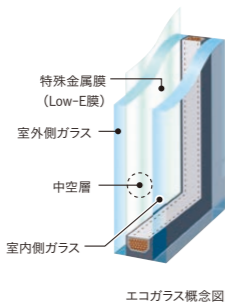
お湯が早く出るように給湯配管内のお湯を温め、保温するシステムです。

*120㎡以上に適用

エコガラス

複層ガラスの全窓に特殊金属膜「Low-E膜」をコーティング。優れた遮熱・断熱効果で冷暖房効果を高め、エアコンの電気代やCO₂排出量を削減するとともに、紫外線をカットする効果もあります。

*パークマンション13階の一部には、アルゴンガス封入ガラスを採用しています。



エコガラス概念図

全熱交換換気システム

換気の際に排出する室内空気の熱を利用して、外気の温度を室内の温度に近づけてから取り込む換気システム。冷暖房効率を高め、省エネに貢献します。

*30㎡未満の住戸を除く

エネルックリモコン

給湯器で使用したガス・お湯の使用量とCO₂排出量を見える化したガス給湯器リモコンです。



エネルックリモコン(参考写真)

エコジョーズ

排出される熱も再利用する高効率ガス給湯器。ガスの使用量を軽減し、CO₂排出量もガス代も削減します。



高効率TES熱源機

節水トイレ

水の使用量を抑えることができる、節水型のトイレです。



節水トイレ(参考写真)

ZEH-oriented

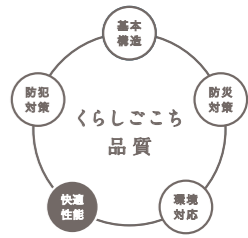
全住戸、ZEH-orientedを取得予定です。ZEH-orientedとは、断熱性能や設備効率を高め、一定の基準(国が定める省エネ基準を20%下げたもの*)を満たした住宅を指します。

*住戸ごとに基準は異なります。

壁面緑化・屋上緑化

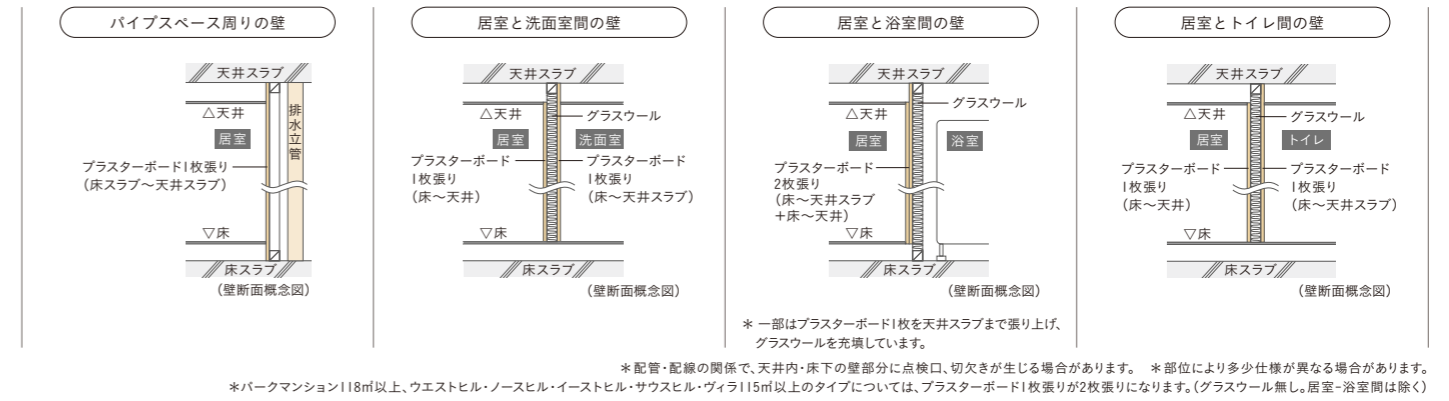
地面だけでなく壁面や屋上にも緑化スペースを確保しました。ヒートアイランド現象の緩和などに効果が期待できます。

心地よく暮らせる居住性に配慮する



住戸内の遮音対策

水まわりやパイプスペースに面する壁は遮音に考慮した納まりとしています。



住戸間の遮音対策

戸境壁は隣り合う住戸からの音に対して十分配慮した、乾式耐火遮音壁を採用しています。さらに戸境壁に直接コンセントボックスを設けないなど、建物設計の段階からきめ細かく遮音性能の向上に努めています。

重量床衝撃音対策

上階からドスンと響いてくる音に対しては、適正な床スラブの厚みを確保するとともに、メーカーカタログ表示で重量床衝撃音低減性能△LH(II)-3等級の二重床材を採用しています。

*パークマンションは△LH(II)-4等級の二重床材を採用しています。

軽量床衝撃音対策

スプーンを落とした時のコツンという音などに対しては、乾式遮音二重床で対応。居室にはメーカーカタログ表示で軽量床衝撃音低減性能△LL(II)-4等級の二重床材を採用しています。

*乾式遮音二重床の重量床衝撃音レベル低減性能(△LH(II)-3等級)および軽量床衝撃音レベル低減性能(△LL(II)-4等級)は、公的試験機関においてJISの定める実験方法によるデータに基づき、メーカーが表示した乾式遮音二重床の重量床衝撃音レベル低減量および軽量床衝撃音レベル低減量を示したもので、竣工後の実際の住戸内の遮音性能を示すものではありません。 *メーカーカタログ表示における標準型試験体の納まりと当マンションの納まりでは異なる部分があります。

シックハウス対策 からだにやさしい建材

シックハウス症候群の主な原因とされる化学物質・ホルムアルデヒドは、接着剤や合板に含まれます。当マンションでは、壁紙と壁紙に使う接着剤、フローリングやキッチンキャビネット、クロゼットなどの素材となる合板とパーティクルボード等はF☆☆☆☆等級の人体に優しい建材を採用。お客様にお引き渡す前に十分に換気するなど、品質管理面での対策を行っているほか、24時間微風量換気システムや換気口によって、常に換気ができるよう配慮しています。

音の感じ方は個々人によって違うもの

マンションは床スラブ・戸境壁が他住戸とつながっているため、上下階やお隣の生活音が響いてきます。生活音の伝わりを完全に遮断することは現実的に困難で、過度な対策は住み心地にも大きな影響を及ぼしてしまいます。また、同じレベルの音であっても、生活する時間帯や個々人の育った環境などで、感じ方は異なります。当マンションは音を伝えにくくする工夫を施していますが、大切なのは音に対するマナー。お互いが配慮しながら生活することが、マンションライフのマナーだといえます。

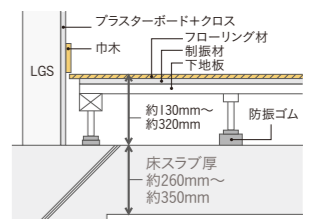
乾式二重床

生活音がフローリングや下地板から床スラブに伝わりにくいよう防振ゴムの付いた支持脚で床のパネルを支えています。



二重床(参考写真)
*メーカーにより仕様が異なります

断面イメージ図(居室部分)

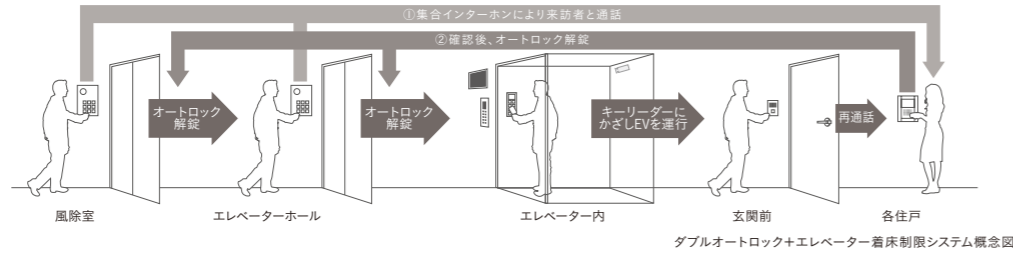


床表面で発生した振動が壁面から躯体に伝わり、隣接住戸に伝わってしまうことがあります。これを防ぐために、フローリング床材と壁・巾木および敷居が接しないよう、施工時に隙間を確保しています。

くらしを守る安全対策を講じる

ダブルオートロック+エレベーター着床制限システム

エントランス等には、居住者や来訪者と共に入館する侵入手を抑止する、ダブルオートロック方式のカメラ付オートロック操作盤を設置しています。さらに、エレベーターは住戸の鍵に組み込まれたICチップにより、ご自分の居住階と共用階のみ着床するシステムを組み込んでいます。



防犯カメラ

共用部エントランスホールやエレベーターには防犯カメラを設置。防犯カメラの映像は防災センター内のデジタルレコーダーに録画され、一定期間保存されます。



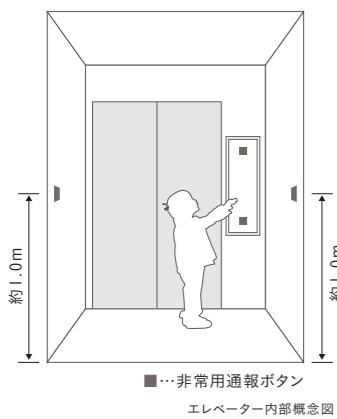
防災センターのセキュリティ

マンションに必要な大切な設備が揃う防災センターは、不審者の侵入を防ぐために、防犯人感センサーと防犯ドアセンサーを設置。異常時には警報音が鳴り、警備会社と三井不動産レジデンシャルサービスの「お客様センター」へ自動通報します。



エレベーターの防犯対策

行き先ボタンの位置は、お子様が操作できるよう設定。非常用通報ボタンは、お子様の手が届きやすい高さ約1.0mに設置。非常用通報ボタンが押されると防犯ブザーが鳴り、3分間各階に停止し、扉を開ける防犯運転を行います。



▶防犯モニター
特定階のエレベーターホールには、カゴ内の様子が分かるモニターを設置しています。

防犯玄関ドア

無理やり侵入する手口に対応するドアガード(耐震機能付)、サムターン回し手口に対抗する防犯サムターン、こじ開け対策としてガッチリとかみ合う鎌型デッドボルト錠と防犯召し合わせを装備しています。

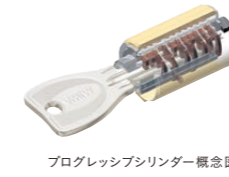


赤外線センサー

敷地外周部や中庭の一部には、赤外線センサーを設置し、侵入者を赤外線で検知します。また、4段ハイパワービームを採用することにより、霧や雪、豪雨などの環境悪化時の誤動作を低減します。

プログレッシブシリンダー玄関錠

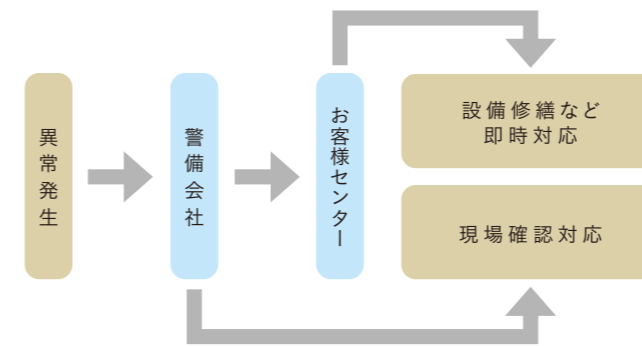
官民合同会議の試験で「防犯性能の高い建物部品」に認定された玄関錠。約1,000億通りのキーパターンがあり、ピッキングなどの不正解錠が非常に難しく、キーナンバーの読み取りなどによる不正なキーの複製も防止します。また、差し込みやすいリバーシブルタイプです。



*美和ロックカタログより。
*プログレッシブシリンダーはMIWAの登録商標です

セキュリティネットワーク

三井不動産レジデンシャルと三井不動産レジデンシャルサービス、警備会社が運営する「セキュリティネットワーク」を導入しています。火災・防犯などの個別監視、共用部分の設備機器の異常警報など、警備会社および三井不動産レジデンシャルサービスの「お客様センター」が24時間365日体制で一括管理。緊急対応を要する事態が発生した場合、三井不動産レジデンシャルサービスは専門会社への出動依頼や現場急行の指示など、必要な措置を速やかに行い、警備会社は警報受信後直ちに状況に応じた適切な対処で皆様の安全を守ります。



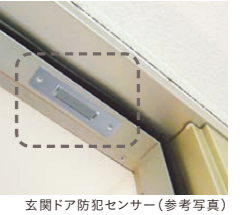
防災センター

朝から夕方までは、管理員が通勤して、通常の管理業務を行います。また、警備員が24時間駐在し、敷地内の巡回警備を行うほか、センター内に置かれた防災監視盤のモニタリング、緊急連絡の対応など、万一の事態に備えます。



防犯センサー

全住戸の玄関ドアと一部住戸の窓※に設置。防犯設定時に玄関ドアや窓が開けられるとセンサーが反応し、カラーモニター付インターホン(住宅情報盤)が警報を発すると同時に警備会社および三井不動産レジデンシャルサービスの「お客様センター」へ自動通報されます。



※パークマンションのすべての窓、ノースビル、サウスビル、ウエストビル、イーストビル、ヴィラの1階および最上階の窓

カラーモニター付インターホン(住宅情報盤)

来訪者を声と画像で確認でき、不審者の侵入や煩わしい勧誘を未然に抑止することができます。

▶訪問者録画・録音機能付

不審者のチャイムを押しての不在確認対策として、在宅時・留守時ともに、訪問者を録画できます。



コールボタン

▶非常コール・救急コール

住戸内で緊急事態が発生した際、コールボタンを押すと、三井不動産レジデンシャルサービスの「お客様センター」へ通報。状況確認の上、警備員が出動し事態に対応します。



▶漏水センサー

住戸内の水場廻り(キッチン・洗面室・トイレ)※の床下(コンクリートスラブ上)にセンサーを設置。水漏れ等による異常時に反応し、カラーモニター付インターホン(住宅情報盤)でお知らせします。

※複数の水回り設備が同じスラブ下がり範囲にある場合は、漏水センサーはその範囲内で1ヶ所とします。

▶トイレコール

トイレ内で事故や具合が悪くなった時、コールボタンを押すと、カラーモニター付インターホン(住宅情報盤)に警報と点滅表示で告知し、家族にお知らせすると同時に三井不動産レジデンシャルサービスの「お客様センター」へ自動通報します。